

令和元年6月28日現在

機関番号：32697

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K02045

研究課題名(和文) 東インドに由来するサンスクリット写本識語の研究

研究課題名(英文) Colophons of Sanskrit manuscripts originating in Eastern India

研究代表者

堀 伸一郎 (Hori, Shin'ichiro)

国際仏教学大学院大学・国際仏教学研究所・研究員

研究者番号：60339778

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：東インドで作成されたと考えられるサンスクリット写本について、識語を中心に研究をおこなった。写本識語をできる限り正確に解読するため、国内外のサンスクリット写本所蔵機関で実見調査を実施した。識語に年代や日付が含まれる場合は西暦換算を試み、地名・寺院名・王名・筆写者・寄進者・所有者・肩書等を収集した。なかでも、15世紀に東インドで大乗仏教徒が活動していたことを実証する写本識語を写真とともに公刊できたことは、仏教史研究において意義深い。さらに、識語から作成年代の確定した個人所蔵写本1点について、放射性炭素年代測定を実施した結果、その作成年代が理化学的にも実証された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「インド仏教は13世紀初頭に滅亡した」という従来の通説を覆し、15世紀まで東インドで大乗仏教徒が活動していたことが、年代・日付、村落名・筆写者名・所有者名・肩書を明記する複数のサンスクリット写本識語によって明らかとなった。個人所蔵のサンスクリット写本について実施した放射性炭素年代測定は、作成年代の確定したサンスクリット写本を測定対象とした最初の事例となった。

研究成果の概要(英文)：The project focused on the study of colophons of Sanskrit manuscripts originating in Eastern India. In order to decipher the colophons as accurate as possible, I have conducted actual surveys of manuscripts housed in Japanese and foreign institutions. In the case of dated colophons, I have tried to determine the exact dates and to convert the Indian dates to the Common Era. I have also collected such data as places, monasteries, rulers, scribes, donors, owners, titles, etc. connected to the colophons. The publication of colophons confirming the activities of Mahayana Buddhists in Eastern India in the 15th century CE, together with their digitized images, constitutes an important contribution to the understanding of the Buddhist history. Moreover, a radiocarbon test has confirmed the copying date of a Sanskrit manuscript in a private collection whose colophon is dated.

研究分野：サンスクリット文献学

キーワード：サンスクリット写本 写本識語 後期インド仏教史 東インド中世史 東インド写本 インド暦 放射性炭素年代測定

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

19世紀以降、ネパールから世界各地の研究機関・図書館・博物館・美術館等にもたらされたサンスクリット写本の中には、もともと東インドで作成された後にネパールに移送された写本が含まれていることが知られている。これら東インドに由来するサンスクリット写本の識語は、当時のインド人が自ら記した同時代史料として、東インド中世史研究に用いられてきた。さらに、東インド由来のサンスクリット仏教写本には細密画を含むものが多く、インド美術史研究にも極めて重要な資料となってきた。文献学的にも、東インド写本は多くのネパール写本よりも書写年代が古いため、個々の校訂本では参照されることもあった。しかし、東インド中世史研究やインド美術史研究で重視されてきたのに比べ、仏教文献学・サンスクリット文献学の分野で東インド写本の識語を包括的に扱う研究はこれまでほとんど見られなかった。

2. 研究の目的

日本を含む世界各地の所蔵機関に散在する東インドに由来するサンスクリット写本、特に仏教写本の調査を実施し、識語をできる限り正確に解読した上で、識語に含まれる様々な情報(筆写年代・地名・寺院名・王名・筆写者・寄進者・所有者・肩書等)を収集し、年代・日付が明記される場合は書写年代を確定させることを目的とした。

3. 研究の方法

まず既存の写本カタログや校訂本の記述を手掛かりに、東インドで作成されたと考えられるサンスクリット写本を抽出した。所蔵機関で閲覧可能な場合は、実見調査で識語を解読しながら電子テキストとして入力しデータを蓄積した。識語に年代・日付が記されている場合は、インド暦換算ソフトウェア Michio Yano & Makoto Fushimi, *Pancanga Vers.* 3.13 を応用し、西暦換算と作成年代の確定を試みた。さらに、識語の記述に基づき西暦 1153 年 6 月 20 日に書写完了したことを確定できるサンスクリット写本について、東京大学総合研究博物館のコンパクト AMS (加速器質量分析) 装置を使って放射性炭素年代測定を実施した。識語に記される村落等の地名は、インターネット上で公開されている現代インドの地名データベース *India Place Finder* (東京大学大学院人文社会系研究科 水島司研究室) を利用しながら地名の比定を試みた。つまり、ソフトウェアによって時間を、データベースによって空間を特定しながら研究を進めた。複数の写本識語に記される Kapasia という村落名に関しては、ビハール州ガヤー県のカパシヤー村に比定できる可能性があるため、同村で現地調査を実施した。

4. 研究成果

国内では、東京大学総合図書館と大正大学附属図書館で集中的に実見調査をおこなった。大正大学附属図書館では OPAC で所蔵確認ができる全写本の識語調査が完了した。その結果明らかになった、書写年代・地名・寺院名・筆写者名・寄進者名・所有者名等の情報は、吉澤秀知「大正大学附属図書館所蔵ネパール写本目録」『大正大学総合佛教研究所年報』39 (2017): 137-154 に取り入れられた。

国外では、イギリス・アイルランド・フランス・スイス・アメリカ・インドの写本所蔵機関で実見調査を実施した。

大英図書館では、東ベンガル出身の仏教僧 Vanaratna (1384-1468) の蔵書であることが識語に明記される、サンスクリット文学関連写本を実見調査し、雑誌論文 を刊行した。当該論文には、識語を含むフォリオのカラー写真を同館の許可を得て掲載した。識語に記される Kapasia という村落名は、現代インドの地名データベース *India Place Finder* (東京大学大学院人文社会系研究科 水島司研究室) を利用し、ビハール州ガヤー県のカパシヤー村に比定できる可能性が高まった。同村で現地調査を実施した結果、当該写本が作成されたことを直接示す証拠は発見できなかったものの、同村出土とされる触地印仏像(写真を雑誌論文 に掲載)は、かつて仏教徒が同村に居住していたことを示唆する。識語にヴィクラマ暦で記される年代・日付は、インド暦換算ソフトウェア Michio Yano & Makoto Fushimi, *Pancanga Vers.* 3.13 で、問題なく西暦換算でき、作成年代(西暦 1421 年 9 月 29 日月曜日および西暦 1422 年 11 月 13 日金曜日)が確定した。その結果、「インド仏教は 13 世紀初頭に滅亡した」という従来の通説を覆し、15 世紀前半まで大乘仏教徒がビハールで活動していたことが確実となった。筆写者は、仏教徒である可能性が高い Vagisvara という名の書記である。Vanaratna がボード・ガヤー周辺に滞在中、作成を依頼したと考えられる。

実見調査を実施した写本所蔵機関のうち、インド・ワラーナシーのバナーラス・ヒンドゥー大学 Bharat Kala Bhavan (インド美術館)、インド・ムンバイの Chhatrapati Shivaji Maharaj Vastu Sangrahalaya とアイルランド・ダブリンのチェスター・ビーティ図書館は、サンスクリット写本を所蔵することが報告されてはいるが、写本目録が公開されていないため文献学研究者にはほとんど知られていない。調査の結果、予想を上回る分量の写本を所蔵していることが判明した。

写本の年代決定に関しては放射性炭素年代測定も実施した(雑誌論文)。古宇田亮修氏所蔵サンスクリット法文学文献 Gopala 著 *Krtyakamadhenu* 貝葉写本は、識語の記述に基づき西暦 1153 年 6 月 20 日に書写完了したことが確定するが、東京大学総合研究博物館のコンパクト AMS (加速器質量分析) 装置を使って同写本の放射性炭素年代測定を実施したところ、IntCal13

(北半球用の較正データ)による較正年代が書写完了日よりもやや古い年代を示すのに対し、SHCal13(南半球用の較正データ)による較正年代には書写完了日が含まれることが判明した。この結果は、インド洋からの南西季節風が雨季をもたらすインド亜大陸の植物の場合、SHCalを適用した方がより適切な較正年代を得られる可能性を示唆している。インド亜大陸のサンスクリット写本についてこれまでに行われた放射性炭素年代測定が、いずれも作成年代が確定しない写本を測定対象としたのに対し、本測定は作成年代の確定したサンスクリット写本を測定対象とした最初の事例となった。

写本識語と並び、東インド中世史研究で重要な同時代史料は、銅板等の碑文である。研究協力者の古井龍介は、東インドに由来する複数の銅板文書を出版した。特に、ゴーパーラ 4 世とマダナパーラのラジブプル銅板文書に関する雑誌論文¹⁾では、当該文書に記される日食の日付確定やパーラ期写本識語の参照など、研究代表者の研究協力の成果が反映されたものとなっている。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計7件)

Shin'ichiro Hori, In the Wake of a Buddhist Monk in 15th-Century Eastern India: The Manuscripts of Sanskrit Grammatical Texts Originally Owned by Vanaratna, *Bulletin of the International Institute for Buddhist Studies*, 査読有, Vol. 1, 2018, 45-60, <http://id.nii.ac.jp/1153/00000451/>

堀 伸一郎・米田 穰・大森 貴之・古宇田 亮修, 古宇田亮修所蔵サンスクリット法学文献 Gopala 著 *Krtyakamadhenu* ヤシ葉写本の書写年代と放射性炭素年代, 『第 19 回 AMS シンポジウム・2016 年度「樹木年輪」研究会共同開催シンポジウム報告集』, 2017, 106-109

Ryosuke Furui, Subordinate Rulers under the Palas: Their Diverse Origins and Shifting Power Relation with the King, *The Indian Economic and Social History Review*, 査読有, 54, 3, 2017, 339-359, <https://doi.org/10.1177/0019464617710745>

堀 伸一郎・米田 穰・大森 貴之・古宇田 亮修, 古宇田亮修所蔵サンスクリット法学文献 Gopala 著 *Krtyakamadhenu* ヤシ葉写本の書写年代と放射性炭素年代, 『第 19 回 AMS シンポジウム・2016 年度「樹木年輪」研究会共同開催シンポジウム 要旨集』, 2016, 13

Ryosuke Furui, Ajivikas, Manibhadra and Early History of Eastern Bengal: A New Copperplate Inscription of Vainyagupta and Its Implications, *Journal of the Royal Asiatic Society of Great Britain and Ireland*, 査読有, 26, 2016, 657-681, <https://doi.org/10.1017/S1356186315000437>

Ryosuke Furui, Bharat Kala Bhavan Copper Plate Inscription of Rajyapala, Year 2: Re-edition and Reinterpretation, *Puravritta: Journal of the Directorate of Archaeology & Museums*, 査読有, 1, 2016, 41-56

Ryosuke Furui, Rajibpur Copperplate Inscriptions of Gopala IV and Madanapala, *Pratna Samiksha: A Journal of Archaeology, New Series*, 査読有, 6, 2015, 39-61

[学会発表](計8件)

Ryosuke Furui, Changing Structure of Political Powers in South Asia: Bengal from the Fifth to the Thirteenth Century, Lecture at Department of History, University of Delhi (招待講演) 2018

Shin'ichiro Hori, Buddhism in 15th-Century Eastern India: Sanskrit Manuscript Evidence and Tibetan Sources, XVIIIth Congress of the International Association of Buddhist Studies, 2017

Ryosuke Furui, Changing Patterns of Agrarian Development in Early Medieval North Bengal: A Delineation from the Inscriptions, An International Conference on 'Early Medieval/Medieval' in Bengal: Transdisciplinary Perspectives in Archaeology with special reference to Bangladesh, 2017

Ryosuke Furui, Reading Copper Plate Inscriptions of Bengal: Forms, Formats and Contents, Seminar held at Bangladesh National Museum, 2017

Ryosuke Furui, Changing Structure of Political Powers in South Asia: Bengal from the Fifth to the Thirteenth Century, Paris EFEO Seminar, 2017

堀 伸一郎, 15 世紀東インド仏教徒の軌跡 Vanaratna 旧蔵サンスクリット写本について, 日本印度学仏教学会第 67 回学術大会, 2016

堀 伸一郎・米田 穰・大森 貴之・古宇田 亮修, 古宇田亮修所蔵サンスクリット法学文献 Gopala 著 *Krtyakamadhenu* ヤシ葉写本の書写年代と放射性炭素年代, 第 19 回 AMS シンポジウム・2016 年度「樹木年輪」研究会共同開催シンポジウム, 2016

Shin'ichiro Hori, Colophons of Sanskrit Manuscripts from Eastern India and Their Contribution to the Pala Chronology, 16th World Sanskrit Conference, 2015

〔図書〕(計2件)

Abdul Momin Chowdhury and Ranabir Chakravarti (eds.), *History of Bangladesh: Early Bengal in Regional Perspectives (up to c. 1200 CE)*, Vol. 2: Society, Economy, Culture, Asiatic Society of Bangladesh, 2018, 43-70 (Ryosuke Furui 担当分)

太田 信宏 編, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 『前近代南アジア社会におけるまとまりとつながり』, 2017, 181-215 (Ryosuke Furui 担当分)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等
サンسكريット仏教写本 所蔵機関リンク集
http://www.icabs.ac.jp/wp/iibs_html/links.html

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：
ローマ字氏名：
所属研究機関名：
部局名：
職名：
研究者番号(8桁)：

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：古井 龍介
ローマ字氏名：Furui Ryosuke
所属研究機関名：東京大学
部局名：東洋文化研究所
職名：准教授
研究者番号(8桁)：60511483

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。